



IB 生徒オリエンテーション

4月9日、生徒対象に IB の教育と評価についての概要説明を行いました。コーディネーターの穠山から10分ほど説明しましたが、内容としては難しいもので、初回は10分くらいの説明が良いと感じ早めに切り上げました。その後、ワークショップとして、異学年交流の意味合いも込めて「ペーパータワーアクション」を実施しました。

3～4人のグループに30枚のコピー用紙とハサミを渡し、10分間でできるだけ高く積み上げるというミッションです。取り組む前に、「私から何か提示する必要はありませんか？」と問うと、「評価規準（ルーブリック）です」と答えてくれた生徒がいました。概要説明がきちんと伝わっていて嬉しく思いました。初め、「高さ」についてのルーブリックを提示したところ、生徒からは「高い」という声があがりました。このルーブリックというのは課題に取り組む前に教員と生徒で作るというものなので、「高さ」のルーブリックを以下のように変更しました。

ルーブリック A 高さ

0	基準に達していない
1～2	70cm以上 積み上げた
3～4	90cm以上 積み上げた
5～6	110cm以上 積み上げた
7～8	130cm以上 積み上げた

変更



ルーブリック A 高さ

0	基準に達していない
1～2	30cm以上 積み上げた
3～4	60cm以上 積み上げた
5～6	90cm以上 積み上げた
7～8	120cm以上 積み上げた

もう1つのルーブリック「工夫」については、数値ではなく文章にしました。探究とは単に数値目標をクリアするのではなく、そこに至るまでの過程や考えが大切になってくるからです。

実際取り組んでみたところ、7～8規準の120cmの積み上げに半分のグループが成功しましたが、「工夫」の評価規準である斬新で革新的なアイデアを

提示できた人はいなかったようです。今回のワークショップはあくまでも体験であり、10分間の中で5以上の評価までにたどりつくことは難しかったと思います。

これから行われる授業の中では、1単元20時間から30時間という長い時間をかけて、しっかり探究を行ってルーブリックをクリアできるよう頑張ってもらいたいです。

ルーブリック B 工夫

0	基準に達していない
1～2	アイデアを提示した
3～4	効果的な アイデアを提示した
5～6	斬新かつ効果的な アイデアを提示した
7～8	革新的な アイデアを提示した

みんなで学びを～ | B用語～

ストランド

→教科の目標。日本の学習指導要領では全教科①知識・理解 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3観点で評価されるが、IB では教科ごとに目標が定められ、それをもとに評価規準も作成される。ABCDの4つで区分されている。数学では、

A 知識と理解 B パターンの探究 C コミュニケーション D 実生活への数学の応用



↑ 135cm 積み上げたグループ。
取り組みながらアイデアがうまれた
とのことでした。



↓ 先生たちもチャレンジしてくれました。
瓜幕中の素敵なところです！

